

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600124		
法人名	有限会社 聚楽臺		
事業所名	グループホーム じゅらくだい (和・げんき)		
所在地	〒839-0862 福岡県久留米市野中町914番地	TEL	0942-48-3160
自己評価作成日	平成23年11月11日	評価結果確定日	平成23年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは久留米市の中心部に位置している。近くには高良川が流れており石橋文化センターや公園、スーパーなどがあり散歩や買い物に適した環境である。立地の利便性を活かし、いつまでも元気で過ごして頂きたいという思いから「元気に過ごす住まい」という理念を掲げている。窓からの景色では人や車の往来を見ることができ、外の動きや季節を感じることができる。また病院が隣接しているため利用者さまも安心して過ごして頂け、医師とも24時間連絡体制を築いている。近くの歯科とも連携させて頂き口腔指導をお願いしている。利用者様に応じた口腔ケアを指導して頂き肺炎予防や異常の早期発見に努めている。居住は2,3階になるため不安のないよう定期的に避難訓練を実施し、災害対策にも力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成 23年12月09日		

石橋文化センター、図書館、総合庁舎、公園に隣接した久留米市街地に、母体病院併設のグループホーム「じゅらくだい」がある。「元気に過ごす住まい」を理念に掲げ、看護師の資格を持つ管理者は、医療、介護、リハビリ、食事を、利用者の健康管理の柱として位置付け、身体機能維持向上に繋げている。天気の良い日は、散歩、買い物、外食、ドライブ等、利用者の希望を取り入れ、家族と協力しながら、日々の暮らしがマンネリ化しないように工夫されている。管理者と職員は常に笑顔で、利用者や家族、来訪者に接し、周りが自然に笑顔で広がり、温もりのある楽しい雰囲気である。また、病院の3階部分と廊下で繋がり、病院受診や、緊急時の避難経路として利用され、医療連携が図られている。運営推進会議委員による協力は、ホーム運営に不可欠で、活動的で充実した組織になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「元気に過ごす住まい」という理念を掲げ、理念の実践にむけた目標を立てて取り組んでいる。目標が達成できているか職員間での振り返りを定期的に行っている。	「触れ合い、気づきを意識しながら、明るく元気な笑顔」、そして、「自立支援、ケアの統一、声かけ」等、ユニット毎の目標を作り、「元気に過ごす住まい」を目指して職員は日々達成のため努力をしている。また、職員間で、目標が実践できているか確認し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。回覧板やごみ当番に参加させて頂いている。歯科衛生士やヘルパーの実習、障害者の職場実習の受け入れも行っている。	自治会に加入し、地域行事、回覧板やごみ当番に参加している。また、ヘルパー、歯科衛生士、障害者の実習やボランティアの受け入れを行い、地域、外部に開かれたホームを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービスも行っており、地域の方にも会議などを利用し働きかけている。職場実習などで認知症への理解や支援方法を学んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。活動や取り組み、研修の報告など行い、助言を得ながら改善に努めている。議事録を作成し、欠席されたご家族にも送付している。	会議は2ヶ月毎に開催し、家族代表、老人会会長、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、参加者からは、情報、意見、質問など活発に出され、有意義な意見交換の場となっている。出された意見を検討し、ホーム運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム内の課題、問題について随時相談を行っている。じゅらくだい新聞をお渡しし、事業所の様子をお伝えしている。	運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状を理解してもらい、アドバイスや情報の提供を受けている。また、市と地域密着型サービス事業所交流会と合同で研究発表会を開催する等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階は車の通りが多いため施錠をしているがホーム内の2・3Fの行き来は自由にできるようにしている。職員間でも身体拘束の勉強会を行い、日頃から意識の向上に努めている。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、研修会を実施し、拘束が利用者にもたらす弊害について職員間で意識の統一を図り、拘束をしないケアを実践している。また、1階は、安全上鍵をかける事もあるが、それ以外は、利用者が自由に出入りできる状態である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を行い、職員の意識の向上に努めている。日頃より職員間での情報交換を行ったり、入浴時なども利用者さまの全身状態を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム外の勉強会に参加したり、職員間で勉強会を行い理解を深めている。必要時には入居時に成年後見制度についてお話をさせて頂いている。	制度の理解と活用のための職員研修を定期的 に開催し、知識を共有し、利用者や家族に説明 を行い、いつでも制度を活用できる支援体制で ある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書は十分に説明を 行い、疑問点に関してはその都度説明を行 い安心して入居していただけるように努めて いる。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	利用者さまやご家族からの苦情に対して は、十分に話し合いや説明を行い、改善に 努めている。家族会や面会時にはご家族か らの要望等の確認を行っている。アンケート も実施している。	運営推進会議や行事参加時、ホーム来訪時、 電話等で家族と話し合う機会を作り、要望や意 見を聴き取り、反映させている。また、家族アン ケートを実施し、家族会も年1回開催する等、積 極的に家族の思いを汲み取る努力をしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談などで意見が聞けるように努め ている。提案がある場合は職員間で話し合 いを行い、方向性を統一している。	毎月、ユニット毎の会議と全体の会議を開催 し、職員から意見や提案を聞き取っている。出さ れた意見の中で実現できる事はすぐに実行し、 職員のやる気に繋げている。また、個人面談を 実施し一人ひとりの意見や思いの把握に努め ている事が、職員の定着に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	人員を多く配置し、超勤がないように努めて いるが必要時には手当の支給を行っている。 給与水準に関しても徐々に取り組みを 行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあ たっては性別や年齢等を理由に採用対象から排 除しないようにしている。また、事業所で働く職員 についても、その能力を発揮して生き生きとして勤 務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証 されるよう配慮している	採用において性別や年齢を理由に排除する ことはなく、本人の思いや介護への熱意など を考慮している。	職員の休憩室とロッカー、休憩時間を確保し、 職員一人ひとりの得意分野を活かせるよう配慮 し、リフレッシュしながら生き生きと仕事が出来 る環境を整えている。また、職員採用は、年齢、 性別の制限はなく、人柄や意欲を優先してい る。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を 尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発 活動に取り組んでいる	今年度は人権に関する勉強会は実施できて いないが、日頃から利用者様への関わりか たなど話し合いを持つようにしている。	利用者の人権を尊重し、利用者の穏やかで楽 しい暮らしを支援するために、人権学習を取り 入れ、職員間で共有し、利用者の人権を守りな がら、啓発活動に繋げる努力をしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め ている	事業所内・外で研修や勉強会に参加し、ス タッフ間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会や交流会に参加させていただいて情報交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と面会させていただき、不安や要望を伺いながら、できるだけ意向に沿えるよう柔軟に対応している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や意向の把握に努め、十分に説明を行うように心掛けている。ご要望があれば柔軟に対応できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて必要な支援を提案させて頂いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から利用者様と一緒にいることは共に行い、家族であるという思いで関係を築けるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じてご家族に相談させて頂いたり、意向を伺ったりと、ご家族の想いを大切にしながらご家族と共に利用者様を支援できるような関係を築くよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方、知人の方が来られたらゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。ご家族の意向も伺いながら、関係が途切れることがないよう支援を行っている。	利用者の昔の仕事仲間が来訪されたり、利用者が電話で「あんなのぜんざいが食べたい」と知人にお願ひし、数日後に沢山のぜんざいを持って訪ねて来られる等、利用者が馴染みの関係が継続出来るよう、職員一同で支えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を理解し、孤立することがないように関係づくりに努めている。必要に応じて職員が間に入りながら信頼関係を築いていけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、関係を大切にしながら出来ることは柔軟に対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者様との関わりの中で意向の把握に努めている。受け持ちを中心に職員間でも情報交換を行っている。困難な場合は利用者様の立場に立って思いを理解することに心掛けている。	管理者や職員は、常に自分に置き換えながら、その方の立場に立って利用者を理解する事に努め、こういう時はどうするだろう等、利用者一人ひとりの思いに寄り添い、少しずつ反映できるよう努力を続けている。また、過去の履歴や家族に相談する等、利用者本位の支援をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお話を伺い、これまでの生活歴や習慣などの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の現在の状態を維持できるよう、日頃からできる力や支援が必要な状況を把握し支援に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様がより良く生活して頂けるように、職員間やご本人ご家族を交えながら話し合いを行いプランに反映できるよう努めている。月1回のモニタリングと3ヶ月ごとに計画の見直しを行っている。	利用者や家族の要望を聞き入れ、関係者で話し合い、3ヶ月毎に介護計画を作成している。また、利用者の状態変化や急変時には、家族、主治医と連絡を取りながら、その都度見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はプラン内容の把握に努め、個人記録にはプランに沿った内容や気づきを記入するようにしている。また定期的に話し合いの機会を持ち、利用者様のことやケアに関する情報交換を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟に対応している。衛生士による口腔ケアや理美容サービス、鍼灸マッサージなども希望に応じ利用させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や老人会の方、ボランティアの方にも来て頂き、地域と関わりを持たせて頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人の希望に沿って、かかりつけ医による継続した治療が受けられるように支援している。隣接病院の医師とは24時間連絡がとれるよう体制を整えている。	隣接病院の医師から24時間いつでも支援を受けられる体制で、利用者家族からも「病院があるから安心」という声が多く聞かれる。看護と介護に精通した管理者の細やかな配慮で、利用者の健康管理は万全である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護職員を配置し、利用者さまの変化や気づきがあれば看護師へ報告、相談を行っている。必要に応じ受診を行い病院との連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に訪問しご本人の状態を把握している。また病院関係者と情報交換を行い、できるだけ早期に退院できるような支援を心掛けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化対応指針について説明を行い同意を頂いている。利用者様の状態に変化が見られた時にはその都度医師、ご家族と相談をしながら方針を共有している。	重度化に向けた指針を利用者や家族に説明し、了承を得てホームでできる事、できない事を理解してもらっている。利用者の状態変化に伴い、その都度、家族と話し合い、思いを確かめながら、利用者、家族にとってより良い支援ができるよう努力している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿って行動するように努めている。心肺蘇生法や搬送法の訓練を行い急変時に備えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回避難訓練を行っている。久留米市の緊急告知ラジオを設置している。消防署に来て頂き、地域の方も交えた避難訓練を実施している。非常食や飲料水の備蓄を行っている。	建物の2・3階部分に位置することから、火災に対する意識は高く、消防署の指導による防災訓練を、地域住民の協力を得ながら、2ヶ月毎に実施している。また、非常災害時に備えて、非常食、飲料水、毛布等の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さまへの言葉遣いや対応で不適切なことがあれば職員間で声を掛け合い、意識の向上に努めている。個人情報の使用に関してはご家族から同意を頂き慎重に使用している。	職員は、利用者の尊厳を守る事を第一に考え、利用者を人生の先輩として尊敬し、優しい言葉かけやさりげない誘導、穏やかな対応を実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のご自分の思いを表出しやすいような関係、環境作りに努めている。利用者さまが自己決定できるような言葉かけを心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望の沿えるよう柔軟に対応している。利用者様主体の生活であることを常に意識し支援させて頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望に応じて、お化粧をされたり好きな洋服を買いに出かけたりとおしゃれができるよう支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、下膳など利用者さまと一緒にできるように心掛けている。職員も同じ食卓を囲み食事を楽しんでいる。料理会では利用者様と献立を考え一緒に調理を行っている。	料理上手な職員が作る、カロリー計算された野菜たっぷりのご馳走は、利用者の一番の楽しみである。同じテーブルで利用者と職員と一緒に食べる光景は和やかで楽しそうである。また、月に1回の料理会では、利用者のリクエストをもとに利用者と職員と一緒に調理をしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は随時記録し、把握している。水分補給用のゼリーを作り利用者さまに応じて提供させて頂いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週間に1回歯科衛生士による口腔指導をお願いしている。利用者様へ口腔内の継続したケアができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、利用者様の排泄パターンの把握に努めている。できるだけトイレで排泄して頂くよう支援を行っている。	職員は利用者の排泄パターンや日頃の習慣を把握し、声かけや誘導で排泄の自立に向けて支援している。また、日中はできるだけ布パンツで過ごせるよう、利用者の身体機能の維持向上に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排泄パターンを把握し、その方に応じた対応をさせて頂いている。水分補給や運動などを行い便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めさせて頂いているが、状況や希望に応じて柔軟に対応している。	入浴は基本的に週3回行っているが、利用者の希望、タイミングに合わせ、柔軟に対応している。入浴が嫌いな利用者に対しては、色々と工夫し、無理強いしない入浴の支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さまの睡眠の状態を把握し、十分な睡眠がとれるよう支援を行っている。日中もソファやベットなどを利用し休息をとって頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が飲まれている薬の把握に努め、変更や中止などあれば受診ノートに記録し情報を共有している。症状の変化についても記録に残しかかりつけ医へ報告を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの趣味や楽しみを引き出せるような関わりに努めている。ご家族とも協力しながら好きな食べ物など持って来ていただいている。利用者様のできる事は役割としてスタッフと共に行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の外出の希望があれば、できるだけすぐに出かけられるように対応している。こちらからも外出の提案をさせて頂き季節を感じる事ができるよう努めている。散歩や買い物の支援もさせて頂いている。	交通の便の良い場所に位置し、天気の良い日には、近くの文化センター、公園等に散歩に出かけ、できるだけ戸外の空気に触れられるよう支援している。また、個別の外出についても柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かりしているが、なかにはご自分で管理しておられる利用者さまもおられる。外出時買い物時などには自由に使えるよう		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自由にかけて頂いている。ご家族から手紙が届いたり、年始の挨拶や暑中見舞いを利用者様が書かれご家族へ送ったりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの飾り付けを利用者様と行い、季節を感じて頂けるよう工夫している。掃除、換気、室温、照明の調節などを行い、快適に過ごして頂けるように心掛けている。	3階建てビルの2階3階部分であるが、室内のいたるところに職員の工夫やアイデアが見られ、季節の飾りつけや家庭的な調度品等、温かみのある共用空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を配置し、思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたものや好みのものを持って来て頂くようお伝えしている。ご家族と相談しながら居心地良く過ごせるような環境作りに努めている。	広々とした居室には、仏壇、筆筒、テーブル、家族の写真等、利用者の馴染みの物を持ち込んでもらい、利用者が落ち着いて暮らせる場所になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様お一人おひとりの状態を理解し、その方に応じた関わりを心掛けている。自立支援に向けた関わりを大切に、利用者様が自信や意欲が持てるよう努めている。トイレやお風呂は分かりやすいように表示をしている。		